

OUR VISION

私たちが目指す未来の姿

当社グループを取り巻く事業環境が大きく変化
する中、2050年のカーボンニュートラル実現に向
け、2021年8月に「2050年カーボンニュートラル
ビジョン」、同ビジョンを踏まえて2030年までの
経営方針と取り組みを示した「グループ2030年ビ
ジョン」を2021年12月に公表しました。社会の大き
な変化を見据えながら、ステークホルダーの皆さま
とともに歩み、持続可能な社会の実現と地域社会の
さらなる発展を目指します。

Contents	18	OUR VISION
	19	事業環境分析
	20	グループ2030年ビジョン
	21	2030年までに目指す 事業ポートフォリオと目標数値
	22	2050年カーボンニュートラルビジョン



05

OUR VISION

事業環境分析

グループ2030年ビジョン

2030年までに目指す
事業ポートフォリオと目標数値

2050年カーボンニュートラル
ビジョン

≡ CONTENTS

グループ2030年ビジョン



2050年カーボンニュートラルビジョン



サステナビリティ



05

OUR VISION

事業環境分析
グループ2030年ビジョン
2030年までに目指す
事業ポートフォリオと目標数値
2050年カーボンニュートラル
ビジョン

CONTENTS

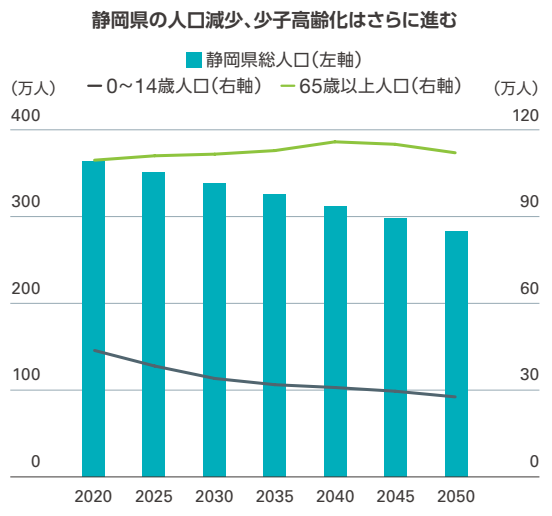
事業環境分析

当社グループを取り巻く事業環境は先行き不透明な状況が続く中、人口減少や少子高齢化、カーボンニュートラル化、デジタル化の進展が大きな潮流になると分析しています。

人口減少・少子高齢化

国内においては、人口減少や少子高齢化の影響^{*1}により、ガス需要の伸びは鈍化していくことが見込まれます。また、静岡県における後継者不在率は約50%^{*2}であり、経営者の高齢化に伴い事業承継を目的としたM&Aの潜在的な需要は今後も緩やかに増加すると想定されます。

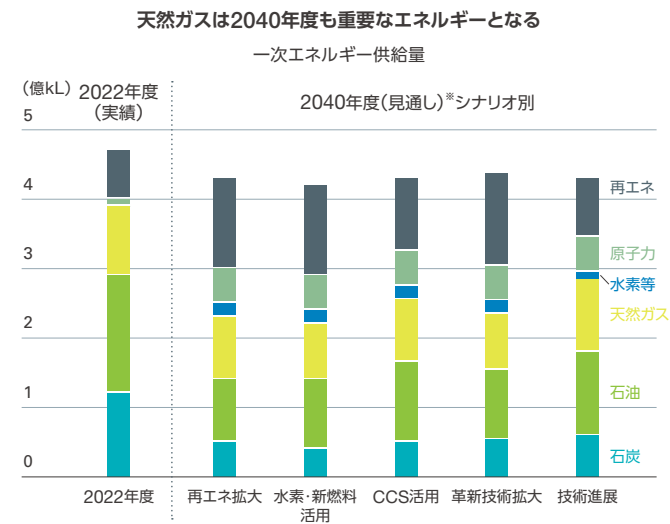
一方、海外に目を向けると、東南アジアやインドを中心に経済成長が期待され、今後のエネルギー需要の増加^{*3}が見込まれます。



カーボンニュートラル化

天然ガスは移行期だけでなくカーボンニュートラル実現後も重要なエネルギー源として第7次エネルギー基本計画^{*4}にて位置づけられており、石炭・石油等からの燃料転換や高効率ガスシステム等の導入による省エネニーズが引き続き見込まれます。

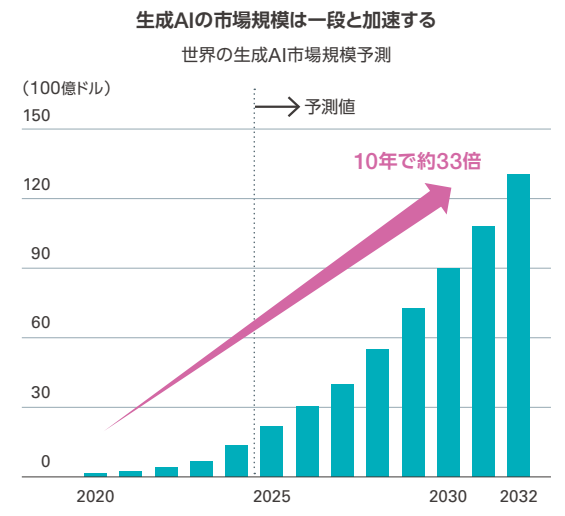
電力は、データセンター・半導体工場の新増設等による需要の増加^{*5}が予測される中、太陽光や風力、バイオマスなどの再エネ導入も進展すると見込まれます。他方で、これらの電源開発が進むと同時に、再エネ発電量の予測誤差や変動も増加するため、さらなる電力の調整力(需給調整に使用する電力)が必要になると考えられます。



デジタル化

生成AI^{*6}をはじめとするデジタル技術の革新は、産業構造の変革を促進し、従来の業界の垣根を越えた新たな競争を引き起こしています。これらの多様なデジタル技術の融合により、ビジネスモデルの変革やイノベーションの加速が期待されます。

技術革新の波を持続的な競争優位へと変えるためには、高度なデジタルスキルを持つ人材の戦略的な確保・育成が不可欠であり、同時に高度化・巧妙化するサイバー攻撃に対応したセキュリティ体制の強化が経営上の重要な課題になると考えられます。



*1「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」国立社会保障・人口問題研究所 <https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/6houkoku/houkoku.asp>
 *2「静岡県「後継者不在率」動向調査(2024年)」帝国データバンク <https://www.tdb.co.jp/report/economic/20241203-succession2024-shizuoka/>
 *3「Southeast Asia Energy Outlook 2024」International Energy Agency <https://www.iea.org/reports/southeast-asia-energy-outlook-2024>
 *4「第7次エネルギー基本計画」経済産業省 <https://www.meti.go.jp/press/2024/02/20250218001/20250218001.html>
 *5「2025年度 全国及び供給区域ごとの需要想定について」電力広域的運営推進機関 https://www.occto.or.jp/juyousoutei/2024/250122_juyousoutei_2025.html
 *6「令和6年版情報通信白書(概要) 技術の発展経緯と経済・社会への効果(出典)Statista(Bloomberg)」総務省 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/r06.html>



グループ2030年ビジョン

地域課題の解決と持続可能な地域づくりに貢献することを企業としての使命と位置づけ、その実現に向けたグループ2030年ビジョン(2021年12月公表)を策定いたしました。

グループ2030年ビジョンでは、地域のお客さまや企業がつながり、それぞれの強みを持ち寄り連携する社会をつくりだすことで、新たな価値創造のサイクルをおこし、地域共創の実現を目指しています。

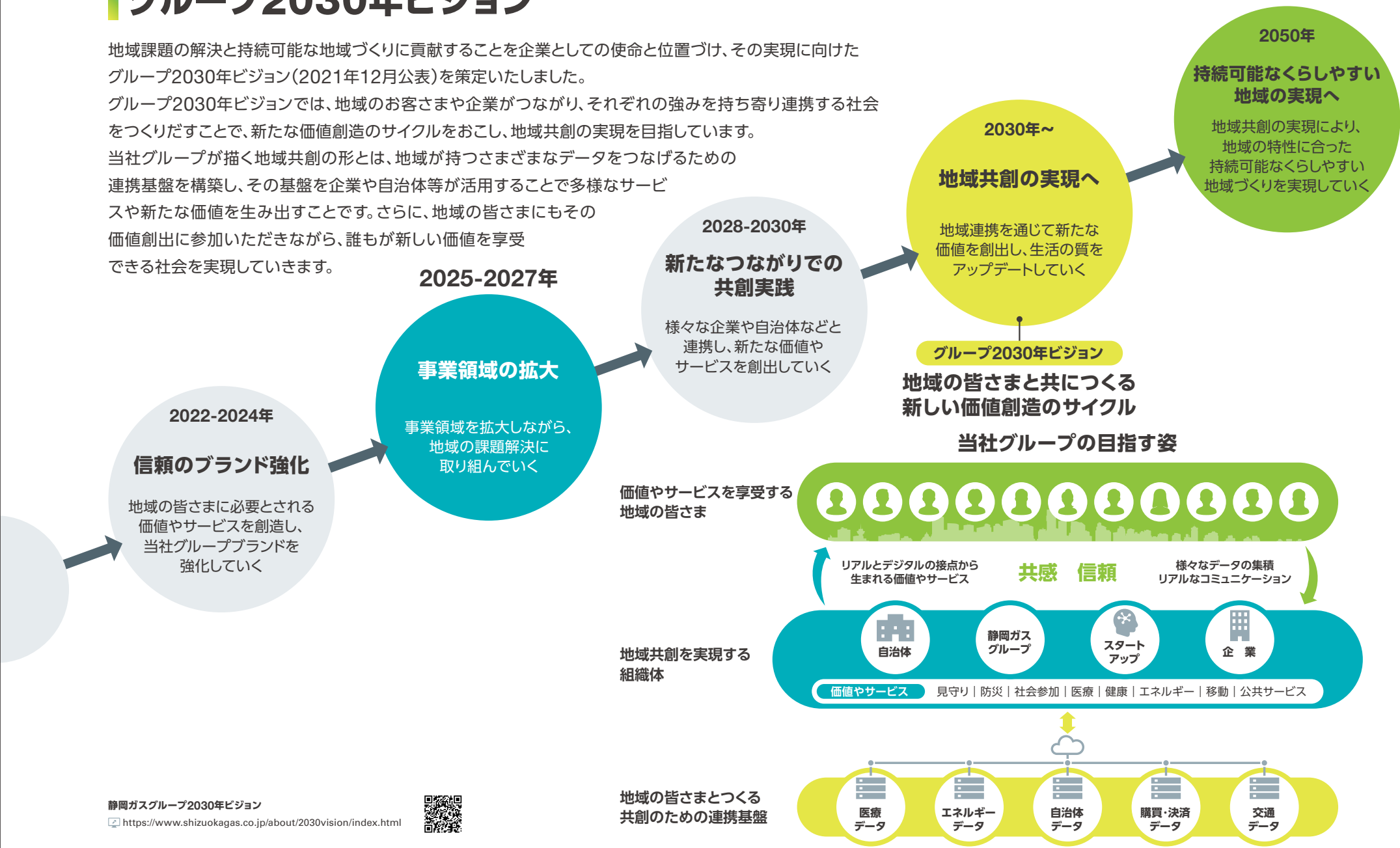
当社グループが描く地域共創の形とは、地域が持つさまざまなデータをつなげるための

連携基盤を構築し、その基盤を企業や自治体等が活用することで多様なサービ

スや新たな価値を生み出すことです。さらに、地域の皆さまにもその

価値創出に参加いただきながら、誰もが新しい価値を享受

できる社会を実現していきます。



静岡ガスグループ2030年ビジョン

<https://www.shizuokagas.co.jp/about/2030vision/index.html>



01 INTRODUCTION
 02 TOP MESSAGE
 03 SPECIAL FEATURE
 04 HOW WE CREATE VALUE
05 OUR VISION
 06 OUR STRATEGY
 07 CORPORATE GOVERNANCE

05

OUR VISION
 事業環境分析
 グループ2030年ビジョン
 2030年までに目指す事業ポートフォリオと目標数値
 2050年カーボンニュートラルビジョン

≡ CONTENTS



OUR VISION
事業環境分析
グループ2030年ビジョン
2030年までに目指す
事業ポートフォリオと目標数値
2050年カーボンニュートラル
ビジョン

≡ CONTENTS

グループ2030年ビジョン



2050年カーボンニュートラルビジョン



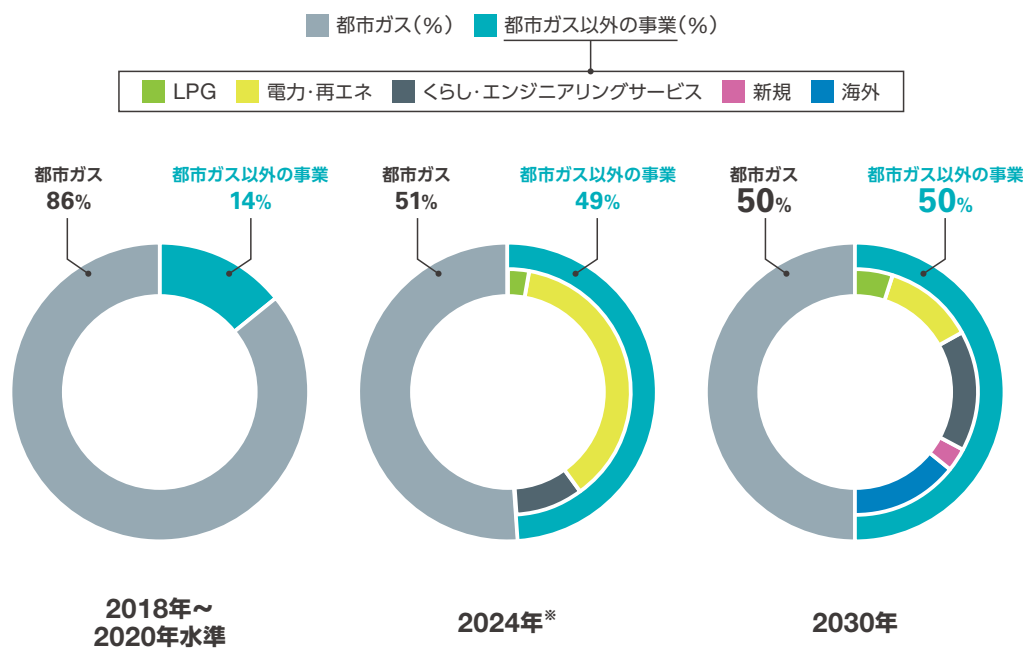
サステナビリティ



2030年までに目指す事業ポートフォリオと目標数値

都市ガス事業の継続的成長を図りつつ、新たな成長事業を確立し、経常利益(連結)に占める都市ガス事業と成長事業の利益比1:1を目指します。

事業ポートフォリオ



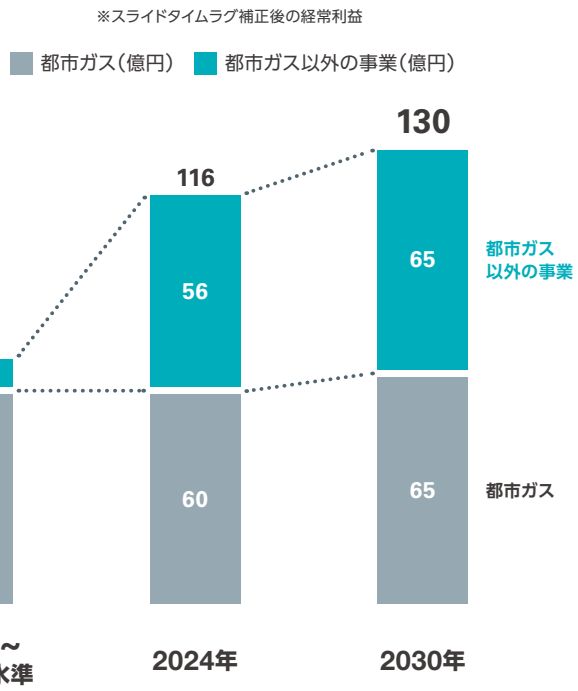
*2024年の電力・再エネは、需給調整市場への参入により取引が増加したことなどにより、事業ポートフォリオにおける割合が多くなっています。

都市ガス事業の継続的成長を図りつつ、電力事業をはじめ、太陽光発電・バイオマス発電などを中心とした再エネ事業、東南アジア・インドにおける海外事業など、新たな成長事業を確立させていきます。これらの各事業を支えるため、他社等との連携、人材育成、組織開発、DX等にも注力していきます。

特に、「他企業・行政・学界等とのアライアンス」、「資本提携」、「M&A」は事業を問わず、成長を加速するための手段の一つとして有効であるため、既存事業とのシナジーの追求とPMIを徹底しつつ、積極的に推進します。

以上のことから、都市ガス事業が創出するキャッシュや人材を含めた経営資源を成長分野(電力・再エネ、海外)へと配分し次なる成長の布石とするとともに、既存分野でも改革を進め、効率化と成長の両方を実現していきます。

経常利益(連結)*



2050年カーボンニュートラルビジョン

静岡ガスグループ2050年カーボンニュートラルビジョン

<https://www.shizuokagas.co.jp/about/2050cnvision/index.html>



国内外での地球温暖化対策への社会的要請の高まりを踏まえ、当社グループの中長期的な方向性や取り組みを示す「2050年カーボンニュートラルビジョン」(2021年8月公表)を策定しました。主たる事業を展開する静岡県の豊かな自然や、充実した産業基盤などの特性を活かし、お客さま・地域とともに、2050年カーボンニュートラルにチャレンジします。また、そのノウハウを東南アジア地域を中心とする海外へも展開し、それぞれの地域の課題解決にも貢献していきます。

2050年までに実現させたいこと

4つのエネルギー(都市ガス、LPガス、電力、水素)の最適化に向けた、地域の分散型エネルギーをデジタル技術で制御するスマートエネルギーネットワークの構築

これを踏まえ、カーボンニュートラル実現に向けた3つの柱を策定

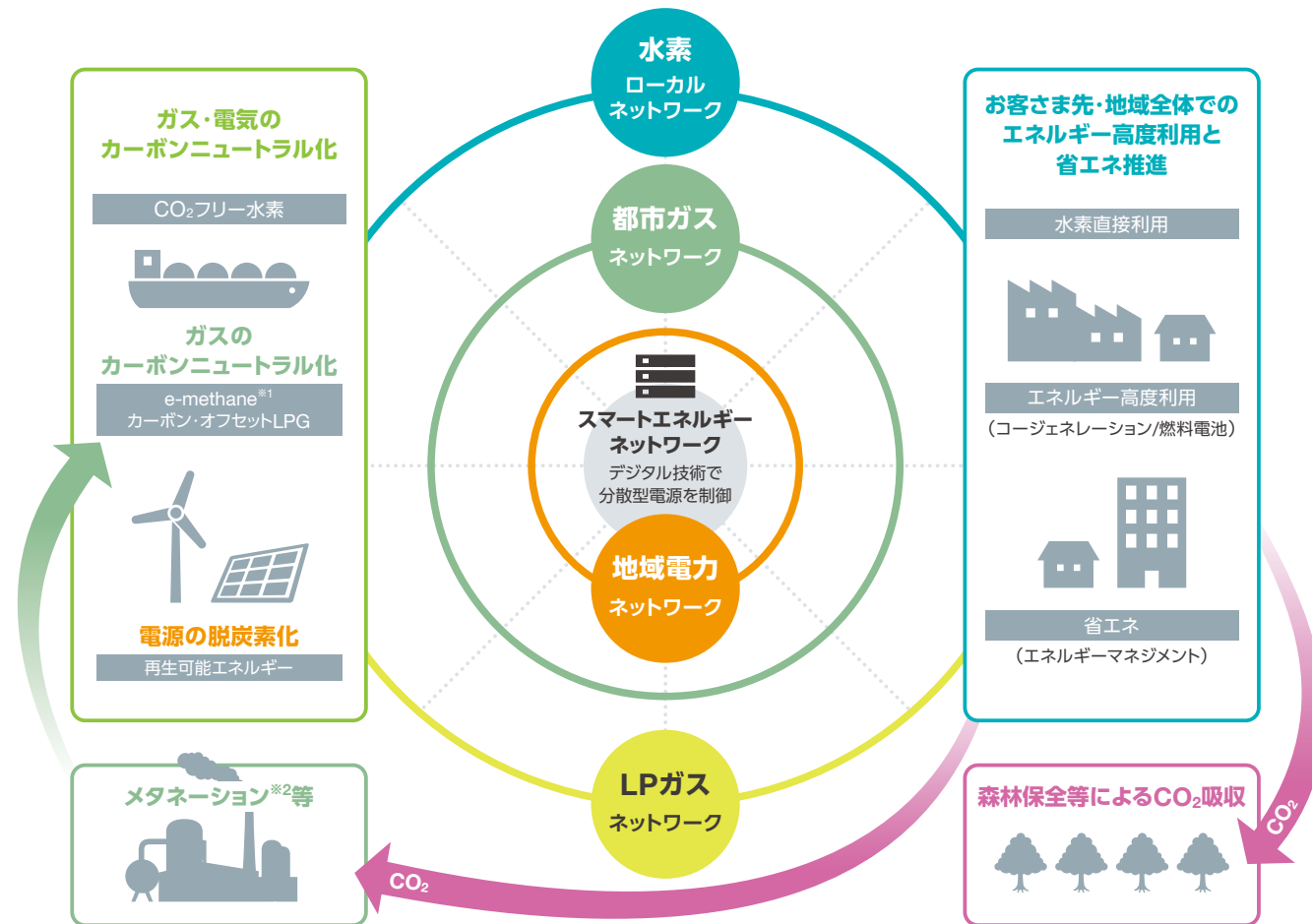
- 1 お客さま先・地域全体でのエネルギー高度利用と省エネ推進
- 2 ガス・電気のカーボンニュートラル化
- 3 CO₂吸収と利用

2030年までに実現させたいこと

革新的技術が実用化されるまでの移行期においては、徹底したCO₂の削減が重要であり、2030年までにCO₂の削減貢献量200万トン達成するため、以下の取り組みを推進します。

- 天然ガスシフト、
- 1 エネルギーの高度利用や省エネの推進、エネルギーの地産地消モデルの構築
 - 2 再生可能エネルギー開発、カーボン・オフセット都市ガス/LPガスの調達
 - 3 お客さま先等でのCO₂回収・利用や森林保全等によるCO₂吸収

2050年当社グループのエネルギービジネス 4つのエネルギーを最適化



※1 グリーン水素等の非化石エネルギー源を原料として製造された合成メタン ※2 水素とCO₂から都市ガス原料の主成分であるメタンを合成すること

01 INTRODUCTION
02 TOP MESSAGE
03 SPECIAL FEATURE
04 HOW WE CREATE VALUE
05 OUR VISION
06 OUR STRATEGY
07 CORPORATE GOVERNANCE

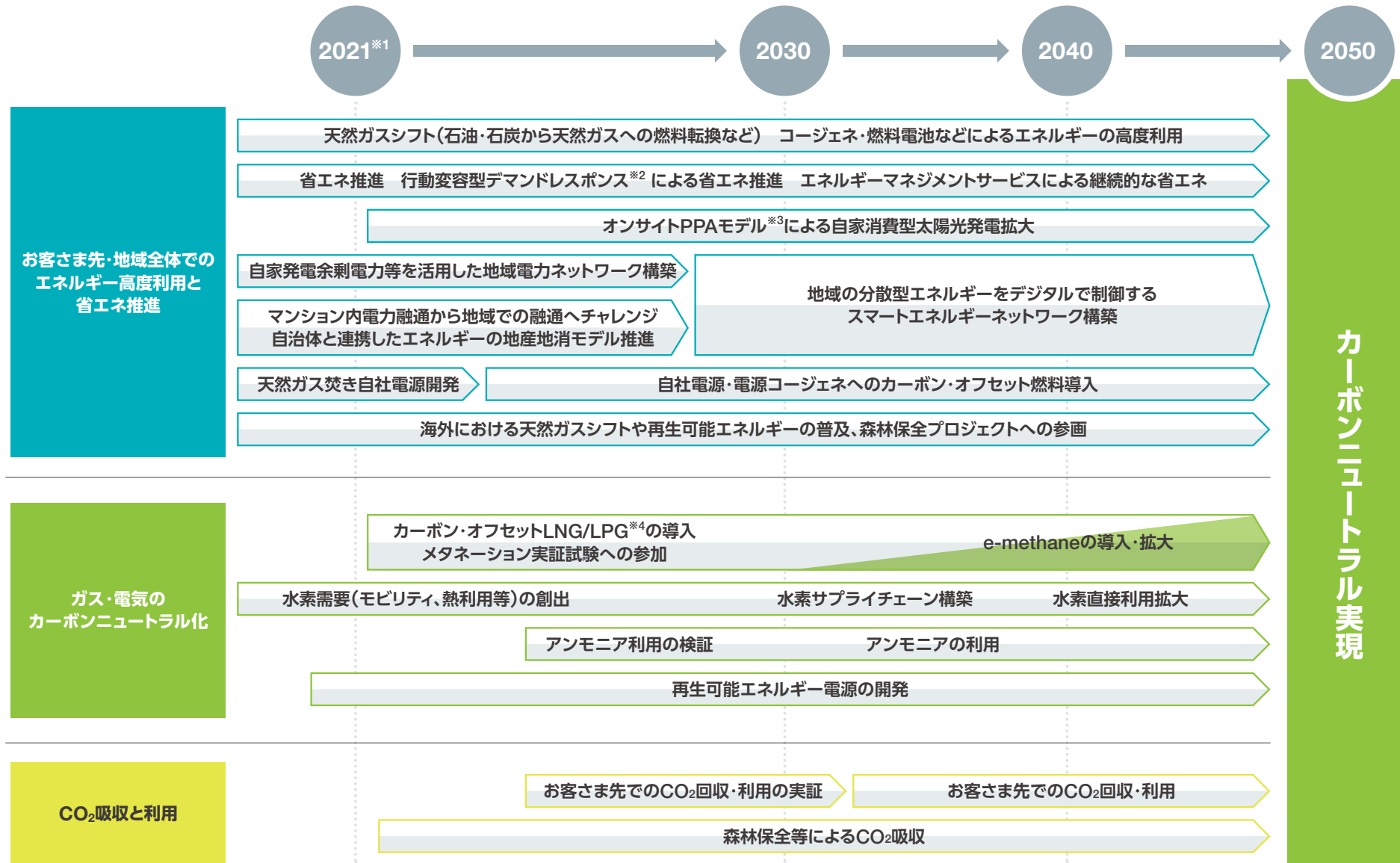
05

OUR VISION
事業環境分析
グループ2030年ビジョン
2030年までに目指す
事業ポートフォリオと目標数値
2050年カーボンニュートラル
ビジョン

≡ CONTENTS



カーボンニュートラルに向けたロードマップ



カーボンニュートラル実現

※1 2050年カーボンニュートラルビジョンの策定(2021年8月) ※2 お客さまの自発的な節電行動(行動変容)を促し、電力需要の抑制を目指す取り組み ※3 事業者の費用によりお客さまの敷地内に太陽光発電設備を設置し、発電された電気をお客さまに供給する仕組み ※4 採掘から燃焼までのすべてまたはその過程の一部により発生する温室効果ガスを、別の場所の取り組みで吸収・削減したCO₂で相殺したLNG/LPG

05

OUR VISION
事業環境分析
グループ2030年ビジョン
2030年までに目指す
事業ポートフォリオと目標数値
2050年カーボンニュートラル
ビジョン

≡ CONTENTS

